

令和2年度高齢者雇用開発コンテスト入賞報告 [岩手県]

高齢者雇用開発コンテストにおいて、岩手県の企業で、

やまぜんてつこうけんせつ
山善鉄工建設 株式会社 様
社会福祉法人 みちのく大寿会 様

の2社が応募していただきました。

今年度は右記の企業が

「独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長表彰 特別賞」を受賞いたしました。

＜入賞企業＞

社会福祉法人 みちのく大寿会

九戸郡洋野町大野 60-41-8

理事長 野田 信雄

入賞企業概要

＜事業所の概要＞

旧大野村（現洋野町）唯一の特別養護老人ホームを設立するために社会福祉法人を公設民営で設立。現在、特別養護老人ホーム久慈平荘・久慈平荘ショートステイなど7事業所を運営

- 介護サービスの質向上を目指し、福祉サービス第三者評価の受審、ISO9001認証を取得
- 働く人の環境を良くするため、処遇の改善、人事考課の導入、目標管理制度の実施
→「いわて働き方改革AWARD2017 優秀賞・2018 最優秀賞」を連続受賞
→「日本創世のための将来世代応援知事同盟主催 将来世代応援企業賞」を受賞
地域をけん引する企業としての歩みを進めている。

＜法人基本理念＞

「故郷（ふるさと）の笑顔を守る法人になります」という基本理念の下、
元気な高齢者から介護が必要な高齢者まで、地元に住み続けたい人に支援をしています。

＜高齢者雇用の推進等のための取組＞

- 高齢者の得意分野を活かし、本人が望む働き方を実現することで、高齢になっても活躍することができる職場を目指す。
- 目標を達成するために、全ての職員が助け合う風土を作り出し、法人理念にある「地域の笑顔を守る社会福祉法人」の役割を担っていく。

創意工夫のポイント

- 「利用者満足度調査」
- 「職場環境に関するアンケート」を実施
→ 改善効果・課題の把握
→ 職場マナー自己チェックの目標設定 / 5Sパトロールの重点確認項目設定
→ PDCAサイクルの仕組みづくり

取組の内容、創意工夫の内容

1. 制度面の改善取組

- ① 定年制度の改正
定年60歳から65歳に延長、継続雇用上限年齢65歳から70歳へ引き上げを実施
- ② 評価制度の導入
職員への人事考課制度を導入、その後、高年齢者にも、同様の制度を適用
→ 人事考課と連動する形で、賞与の支給も実施
- ③ 多様な勤務形態、短時間勤務制度の導入
 - 高年齢者のための短時間勤務制度を導入
 - 週3日勤務・土日のみ勤務など、様々なライフスタイルに合わせた勤務形態を導入

2. 意欲・能力の維持向上のための取組

- ① 高年齢者の得意分野を生かした役割の明確化
本人の得意な作業や軽作業等に限定して仕事を担当するなど、自分のペースで働くことで、生きがいづくりに役立っている。
- ② 資格取得の奨励（能力開発制度）
ヘルパー、介護福祉士、看護師等の資格取得を奨励
資格取得者が増加、仕事にプライドを持って取り組む姿勢が見られるようになった。
- ③ 職場マナー自己チェック制度の導入（セルフチェック）
→職員一人ひとりの意識が向上し、施設全体の接遇・職場マナーが改善された。
→本人の気づきだけでなく、職員同士の注意にも使えた。
- ④ 職場風土の改善（「いいね！カード」の導入） ※職員同士が感謝の気持ちを伝えるためのツール
「いいね！カード」が多い職員を表彰→カードに書くことでお互いが感謝の気持ちを伝えやすくなった。
→職場全体で共有することで職場のモチベーション向上に役立っている。

3. 雇用継続のための作業環境の改善、健康管理、安全衛生、福利厚生取組

- ① 【福利厚生の取組】 希望による休日の取得
・通院しやすくなった（健康管理に役立） ・家族の就労継続も可能となった
- ② 【安全衛生への取組】 5Sパトロールの実施
・事故防止に役立っている ・作業環境改善により職員満足度向上に役立っている
- ③ 【健康づくりに向けた取組】 希望者に万歩計を配布 ▶ 歩数、速度を分析、個人ランキングを公表
→健康に対する意識が向上、健康維持・体力維持により就労が可能となっている。 ※目標達成した場合、法人から地域の子供たちに本をプレゼント→目標設定により、高年齢者がさらに歩くことに意欲的
- ④ 【作業環境への配慮】 身体的負担の軽減
・掃除ロボットの導入 ・パソコン入力代行の仕組み構築 ・施設内に老眼鏡を設置（自由に利用）

今後のさらなる取組

- 活躍の場や仕事の選択肢の幅を広げるため、ケアマネージャー等他の資格取得も支援
- 介護現場における高年齢者や障害者ができる事・得意な事の確認によるサービスの質の向上
- 高年齢者、障害のある人や子育て中の人などいろいろな条件の下で働いている職員が働きやすい職場を実現していくために更なる職場環境づくりに取り組んでいきたい。